

国登録有形文化財

<p>指定名称</p>	<p>季子家住宅主屋 きしけじゆうたく おもや</p>		<p>明治42年(1909)の建築と伝わる。茅葺屋根の上に金属板を被せた寄棟造の大屋根に縁側の下屋をまわし、正面に切妻屋根の玄関がある。3段に重ねた意匠の軒桁で大屋根を支えている。内部には、互い違いに三重に架けられた巨大な梁がある。天井が高く、客間とぶつま、さいこうよう、たかまど、とくちようてき、仏間にある採光用の高窓が特徴的。</p>
<p>指定名称</p>	<p>季子家住宅内蔵 きしけじゆうたく うちぐら</p>		<p>座敷蔵として建てられた切妻造2階建の土蔵で、主屋と同時に建てられたと伝わる。主屋の北側に位置し、主屋と居間で繋がっている。梁間6.0m、桁行9.1m。小屋組中央にはスギ材を5段に重ねた豪放な梁がある。土蔵の外壁は白漆喰と黒漆喰で仕上げられ、周囲は鞘で覆われている。掛子塗4段の土扉に、細工がされた漆塗りの鞘飾りが付いている。</p>
<p>指定名称</p>	<p>季子家住宅外蔵 きしけじゆうたく そとぐら</p>		<p>農業用倉庫として建てられた切妻造2階建の土蔵で、主屋と同時に建てられたと伝わる。主屋の南西に位置し、主屋と土間を介して繋がっている。梁間7.5m、桁行10.3m。内蔵と同様、小屋組中央にはスギ材を5段に重ねた豪放な梁がある。土蔵の外壁は白漆喰、開口部周囲の一部は黒漆喰で仕上げられ、周囲は鞘で覆われている。</p>
<p>指定名称</p>	<p>料亭貞好 りょうてい さだよし</p>		<p>当初建設された部分は木造入母屋造2階建、増築部分は木造入母屋造3階建。2階以上に座敷があり、大納川や対岸の大森公園を借景に取り入れている。手摺や小壁などの細部に凝った意匠を持ち、数寄屋の技法を駆使した当時の大工や左官の技量の高さを窺うことができる。</p>
<p>指定名称</p>	<p>旧加藤茶舗店蔵 きゆうかとうちやほ みせぐら</p>		<p>切妻造2階建の土蔵。北側に付属屋に通じていた通り土間の下屋が付いている。屋根は当初、瓦葺であったが、後に金属板葺に改修された。小屋組は和小屋。西面には付属屋に通じる掛子塗4段の土扉があり、黒漆喰磨きで仕上げられている。市内に現存する数少ない店蔵の一つ。</p>